重点講座 1 説明的文章の形式別対策

学習目標
- 問題解答時に必要な基本知識を、整理して身につけよう。
- テストや入試によく出る問題をたくさん解き、確実に点を取れるようになろう。

標準問題

1 選択肢 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

一九六〇年代から、世界の各地でレッドデータブックなるものが相次いでつくられるようになりました。日本でも国レベルでは環境省、地方レベルでは都道府県や市町村がこれを作成し、順次内容を更新しています。レッドデータあるいはレッドリストというのが、絶滅に瀕している生物のリストだということはよく知られています。地球上の各地でいろいろな生物が急速に絶滅している、あるいはその危機にあるというのは紛れもない事実なのです。

①、種の絶滅自体は、地球上で繰り返し起こってきたことが知られています。進化そのものが、古い種の絶滅と新たな種の出現のもとに成り立ってきたのですから当然といえば当然ではあります。大きな話としては、かつての地球は恐竜の支配下にあり、哺乳類はその陰で細々と生活していたのが、*中生代の終焉とともに、恐竜が滅び去り、そのあと哺乳類が飛躍的な発展をとげたことは、よく知られた事実です。

②、いま世界各地で起こっている絶滅が問題なのは、その原因を人がつくっていることであり、その進行速度が恐竜などの絶滅と違って、短い*時間スケールで起こっていることなのです。時間スケールが短いと、絶滅するまでの間に新たな種が出現する暇がなく、地球上の生物種数が減少することになります。つまり現代の絶滅は新たな種の進化をともなわない、地球の歴史上過去に例をみない絶滅なのです。また、記録に残っている限りにおいても、絶滅のスピードは近年どんどん加速していることが知られています。

〈江崎保男「生態系ってなに？」より〉

（注） 中生代＝地質時代の一つ。古生代と新生代の間で、今から二億五〇〇〇万年前から六五〇〇万年前まで。　時間スケール＝ある状態を維持する時間の範囲。

(1) □①・②に当てはまる言葉を次からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。（ただし、記号は一度しか使えません。）

ア 一方　イ それとも　ウ しかし
エ だから　オ なぜなら　カ 例えば

①□　②□

ポイント
①…生物の現状の話に関連して過去の絶滅の話を持ち出し、対比している。
②…問題のない絶滅と問題のある絶滅という対立する事柄を前後で挙げる。
※選択肢を選ぶ設問では、解答を出す前に全ての選択肢の内容を確認する。
※二か所以上について答える設問では、「同じ記号を何度使ってもよい」「記号は一度しか使えない」などの条件にも注意する。同じ記号を一度しか使えない場合は、最もよい組み合わせで答えを選んでいるか、最後に全体を確認する。

(2) 現代の絶滅の問題点として適切なものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 過去に例をみない新しい種の出現をともなう点。
イ 絶滅から次の種の減少までに時間がかかる点。
ウ 絶滅の危機が人間にまで迫っている点。
エ 絶滅の原因を人間がつくっている点。
オ 短い時間スケールで絶滅が進行している点。

□　□

ポイント
現代の絶滅について詳しく説明している第三段落に着目する。
いま世界各地で起こっている絶滅（＝現代の絶滅）が問題なのは、……ことであり（＝一点目）、……ことなのです（＝二点目）。
※選択肢を選ぶ設問では、常に「適切なものを一つ選ぶ」とは限らない。「一つ選ぶ」のか「複数選ぶ」のか、設問や解答欄で条件を必ず確認する。
※複数の解答を選ぶ設問では、「順に答えなさい」などというように、解答の順序も指定される場合があるので注意する。

2 選択肢　**次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。**

1 わかりやすく伝える基本は、話の本筋をはっきりさせることです。
2 そうは言っても、枝葉に話が行くことで、かえって話し手の人柄を感じさせたり、*ディテールの面白さを伝えたりすることもできるでしょう。そのバランスが大事です。
3 そこで、「時折枝葉に話が行くことはあるけれど、少し行ったらすぐ戻る」という行きつ戻りつを繰り返していくことを心がけましょう。
4 話の本筋を木の幹にたとえましょう。
5 基本はこの幹に沿って話をすることです。
6 しかし、ときどきは、途中で横に行ってみたり、さらに反対側に行ってみたりもします。こんなことをしていくと、全体像が面白く見えてきます。
7 多くの人が陥りがちな失敗は、横に折れたあと、そのまま戻らずにまた曲がって、さらに曲がって枝葉だけが伸びていってしまうことです。
8 そうならないように、自分は木の幹からどれだけ離れたか、いわば自分のいる位置を頭の中の「地図」で確認しながら、横に折れたらまたすぐ幹＝本筋に戻ることを考えながら話しましょう。
9 話の流れの枝がくねくね伸びていってしまうと、盆栽ではないので、見た目も美しくありません。常に「枝に行ったら次は幹に戻ろう」と心にとめて、話せばいいのです。

※一部省略等があります。
（注）ディテール＝全体の中の、細かくて詳しい部分。

〈池上彰（いけがみあきら）「〈わかりやすさ〉の勉強法」より〉

(1) 2段落と3段落の働きとして適切なものを次からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。（ただし、記号は一度しか使えません。）

ア 前で述べたことの具体例を挙げる働き。
イ 前で述べたことを別の言葉で言い換える働き。
ウ 前の部分とはくいちがう内容を述べる働き。
エ 前の部分とは異なる話題を提示する働き。
オ 前の部分を理由として意見を述べる働き。

2段落 ［　　］　3段落 ［　　］

ポイント
2段落…「そうは言っても」に着目。前と対立する内容を後で述べることを示す。
3段落…冒頭にある順接の接続語「そこで」に着目する。
※二か所以上について答える設問では、「同じ記号を何度使ってもよい」「記号は一度しか使えない」などの条件にも注意する。特に、「何度使ってもよい」と明記してある場合は、同じ記号が何度も解答となる可能性が高い。
※複数か所について答えるときは、解答を入れ間違えていないか最後に確認する。

(2) 筆者の主張と合わないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 枝葉の話をすると、わかりやすい話になる。
イ 常に話の本筋を意識しながら話すことが重要だ。
ウ 話が本筋からそれたら元へ戻ることを心がけるとよい。
エ 話を適度に枝葉へ広げることで、個性的で面白い話になる。

［　　］

ポイント
全ての選択肢の内容を確認してから、文章に戻って筆者の主張している内容と照らし合わせる。
※選択肢を選ぶ設問では、常に「適切なものを一つ選ぶ」とは限らない。「一つ選ぶ」のか「複数選ぶ」のかに加えて、「適切なものを選ぶ」のか「不適切なもの（合わないもの）を選ぶ」のか、条件を必ず確認する。

3 抜き出し　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

実はこの地球上には、陸上のほかにも山があります。そう、「海中の山」です。

①海底にはいたるところに独立した山があります。陸上にも山はたくさんありますが、海の中は目で見えにくいこともあって、まさに数えきれないほどの山があります。これらは「海山」と呼ばれています。海山の多くはよく見るとある線に沿って並んでいて、山脈のように見えます。むしろ山脈として分布しているものが目立ちます。大西洋の真ん中には、北極海から、火山と温泉と氷の島・アイスランドを経て南極海まで、およそ2万kmにもわたって海底の山脈が連なっています。こうした海の真ん中にある山脈を中央海嶺といい、大西洋にある中央海嶺は「大西洋中央海嶺」と呼ばれています。海底の山脈は陸上の山脈に比べると、その比高（周辺の海底からの高さ）は３０００m程度ですが、山脈のすそ野（幅）はなんと１００００kmにも及んでいて、全体としてはのっぺりした地形を呈しています。

このように海中までも視野に入れると、地球上で一番高い山は、実は*エベレストではないのです。ハワイ島にある火山、マウナケア。標高４２０５mと陸上の山としてはとるに足らない高さですが、この山は水の上に浮かんでいるわけではありません。標高は海抜で測りますがそれは海面から上の話で、マウナケアは海の底から聳えています。周辺の海底の深さは、およそ５０００mあります。つまり、もし海水を取り去ったとすると、なんと９０００mを超える巨大な山が出現することになるのです。なお火山だけでいえば陸上で一番高いのは南米のオーホスデルサラド（６９０８m）ですが、マウナケア火山はもちろん、これをはるかに凌駕します。②マウナケアこそは、地球上で一番高い山であり、一番高い火山なのです。

（藤岡換太郎「山はどうしてできるのか」より）

（注）エベレスト＝世界最高峰の山。標高８８４８m。　凌駕＝他を追い抜くこと。

---

(1) ——線①「海底にはいたるところに独立した山があります。」とありますが、海底にある山のことを何といいますか。文章中から一語で抜き出しなさい。

ポイント

「これらは……と呼ばれています。」に着目する。

※抜き出して答える設問では、文章中に書かれているとおりに抜き出す。平仮名や漢字などの表記、句読点の有無などに注意する。特に指示がない場合は、「　」（かぎかっこ）や？（疑問符）などの符号も一字と数える。

※「一語」で答える場合は、修飾語などを除いて核となる語だけを抜き出す。

※字数指定がある場合は、「○字（ちょうど）」なのか「○字以内」「○字程度」なのか、条件に注意する。

(2) ——線②「マウナケアこそは、地球上で一番高い山であり、一番高い火山なのです。」とありますが、山や火山としてマウナケアが「地球上で一番高い」といえるのは、どのような場合ですか。「……場合。」に続くように、文章中から八字で抜き出しなさい。

場合。

ポイント

筆者が——線②のように考える理由を、マウナケアについて説明している第三段落から読み取る。

マウナケア…標高（海面からの高さ）４２０５m＋海底の深さ約５０００m

←

＝９０００mを超える巨大な山

エベレスト（８８４８m）・オーホスデルサラド（６９０８m）より高い

※解答部分と指定された文末表現とのつながりが不自然にならないように抜き出す。字数指定がある場合には、その条件も満たすように注意する。

※文末が指定される抜き出しの設問に多い例

「……どのようなことですか」→「『……こと。』に続くように抜き出しなさい」

「……なぜですか」→「『……から。』に続くように抜き出しなさい」

4　抜き出し　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

子どもを育てることについては、私たち日本人が、固く思い込んでいることがもう一つある。それは子どもを大事にするということの中身である。ふつう、われわれ日本人は、子どもを大事にするというと、その子に余計な苦労をさせないことだと考えているフシがある。宝物のように大事に育てるとか、床の間に飾っておくように育てるとか、〝カゴのトリ〟のように育てるといった言い方があるように、子どもを大事に育てるとは、育てられる子どもには何もさせずに、親や周りにいる大人たちが何もかもしてあげることだと考えているということである。

①このような考えは外国でも一般的かというと、そうではない。外国の場合は、といっても私が直接知っているのは②欧米先進国のことであるが、子どもを大事にするとは、日本とはまったく逆で、その子の年齢に応じて、その時期その時期にやれることは何でも体験させることなのである。二歳なら二歳なりに、五歳になればなったで、また一〇歳になればそれ相応にできることや、やるべきことが数多くあるのであり、そうしたさまざまなことをできるだけやらせてあげること、子ども自身に体験させること、それができる条件を整えてあげること、そうすることが子どもを大事にすることの中身であると考えているということである。

〈門脇厚司「子どもの社会力」より〉

(1)　――線①「このような考え」とは、どのような考えですか。その内容に当たる最も適切な部分を、文章中から抜き出しなさい。

ポイント
――線①の前後に着目して、「このような」の指示内容をつかむ。
※字数指定がない場合は、解答を過不足なく抜き出すよう特に注意する。
※表記や句読点などに注意して、文章で書かれているとおりに抜き出す。「一文で」抜き出す場合、特に指示がなければ文末の句点も答えに含む。文全体を答えるときも、「初めと終わりの五字」などを答えるときも、最後の句点に気をつける。

(2)　――線②「欧米先進国」とありますが、欧米先進国では、子どもを大事にすることについてどのように考えていますか。次の文の［　　］A・Bに当てはまる言葉を、Aは文章中から二字で抜き出し、Bは十四字で抜き出し、初めと終わりの五字を書きなさい。

▪子どもの［A］に応じて［B］ことこそが、子どもを大事にすることだと考えている。

B
〜
A

ポイント
直後で、「子どもを大事にするとは、……」と説明していることに着目する。
※設問の文に言葉を当てはめる場合、与えられた文を最初に確認してから文章に戻って解答となる部分を読み取る。［　　］の前後の言葉は、解答を探すヒントになる。
※解答と思われる部分を［　　］の字数どおりに抜き出したら、［　　］に当てはめてみて、前後とのつながりが不自然ではないかを確認する。

5 記述 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

金魚鉢や水槽に浮かべられて観賞用に栽培されるホテイアオイという植物があります。葉っぱの柄のもとが、*布袋様のおなかのように膨らんで浮き袋になり、水に浮く水草です。栽培していると、ある日突然に、この植物が花を咲かせるのに出会うことがあります。淡い紫色の花をはじめて目にすると、誰もがその美しさに驚かされます。六枚の上品な色の花びらからなる花は、ヒヤシンスに似ています。だから、この植物の英語名は「ウォーターヒヤシンス」です。

金魚鉢や水槽の中では、小さくてかわいいホテイアオイですが、川や池や湖に育って野生化すると、旺盛な繁殖力を発揮します。二メートル以上の背丈に成長し、どんどん増えるため、狭い水路などをふさいでしまいます。全国の水域、水路で、繁茂したこの植物を取り除くのがやっかいがられています。

しかし、①「ホテイアオイを金魚鉢や水槽で長い間栽培していても、そんなに大きくならないし、増えることもない」と不思議に思われるかもしれません。その理由は、金魚鉢や水槽には、ホテイアオイが成長するための養分が少ないからです。金魚鉢や水槽には、ごくわずかの金魚の餌の残りや金魚の排泄物ぐらいしか、養分が含まれていません。そんな水の中では、ホテイアオイは旺盛な繁殖力を発揮できないのです。

池や沼、湖などには、一般家庭の生活排水が流れ込みます。そこには、多くの養分が含まれています。また、工場から、窒素やリンをたっぷり含んだ排水が大量に流れ込んできます。「池や沼、湖の水質が富栄養化されている」といわれる現象です。

②そんな水の中では、これらの養分を使って、ホテイアオイは旺盛に繁殖する能力をもっています。金魚鉢の中では、与えられた環境の中で、分相応の生き方をしているのです。

（田中修「植物のあっぱれな生き方」より）

（注）布袋様＝七福神の一人。

(1) ——線①「ホテイアオイを……増えることもない」とありますが、なぜですか。文章中の言葉を使って、三十字以内で書きなさい。

ポイント
——線①の理由は、直後で「その理由は……」と述べられている。
※「○字以内」の条件がある場合は、指定された字数の八割以上は書く。
「○字程度（前後）」→○字プラスマイナス一割の範囲を目安に答える。
「○字以上▲字以内」→○字から▲字の範囲に収まるようにまとめる。
※文末は、設問文と対応する形に整える。
「なぜですか」（理由を問う設問）→「……から。」「……ため。」など
「どのようなこと（点）ですか」→「……こと（点）。」

(2) ——線②「そんな水の中では……もっています。」とありますが、ホテイアオイが旺盛に繁殖する原因は何ですか。次の文の［　　］に当てはまる言葉を、文章中の言葉を使って、七字で書きなさい。

■池や沼、湖の［　　］。

ポイント
〝ホテイアオイはどのような水の中だと旺盛に繁殖するのか〟と考えて、池や沼、湖の水のどのような現象が旺盛な繁殖につながるのかを読み取る。
※指定字数が少ない記述問題では、解答の核となる内容を簡潔にまとめる。「○字以内」ではなく「○字（ちょうど）」と指定されることもあるので、条件に注意する。
※前後の言葉が指定されている場合は、自分の解答を当てはめて読み、意味のつながりが不自然でないかを確かめる。
※文末は、設問文と対応する形に整える。
「何ですか」→名詞で結ぶ（「……もの。」「……こと。」となる場合もある）。

6　記述　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

努力にもいろいろある。何が目的なのか、何に拘束されているのか、などさまざまだ。しかし、大きく二つに分けられるとすれば、それは、楽しい努力と、あまり楽しくない努力である。努力は大切で、それを続けられれば、なにがしかのご褒美的なものがもらえるわけだが、そういった保証のない努力だって、世の中には沢山ある。

一般に、自分が発想したものを実現する努力というものは、基本的に楽しい。それはそうだろう。自分が頭で考えたもの、いわば夢のようなものを実現するのだから、誰でもわくわくする。もっとも、上手くいかない確率も高い。それは自分の発想がどれくらい信頼が置けるものなのかによるし、結局は自分の思考力、自分の計算力にかかっている。

一方、人が発想したものを実現するための努力というのは、人から「楽しいよ」「やり甲斐があるよ」と言われたり、「これをしてくれたら、これだけあげましょう」というような報酬が約束されているのだが、残念ながら楽しみよりは苦痛が大きい。どうしてかというと、やり遂げたときに現れるゴールが、やはり基本的に自分のものに思えないからだ。人が発想したものは、所詮はその人のものなのである。

多くの仕事というのは、全体としては①後者だ。だから、何をどうすれば良いのか指示があるし、やれば給料がもらえる。努力をすれば、なんらかのものが自分の中にも蓄積するので、損ではないけれど、でもあまり楽しめない。せいぜい、約束された報酬を期待するしかない。もっとも、こういった仕事の中にあっても、細かいアイデアを自分が思いつき、それらを交えてする作業もあって、この場合は、結果に対する楽しみが生じる。こういうのが②仕事を楽しいと思えるときだ、と僕は思う。

〈森博嗣「素直に生きる100の講義」より〉

(1)　線①「後者」とは、どうすることを指していますか。文章中の言葉を使って書きなさい。

ポイント
「後者」とは、二つ挙げたもののうちの後のものを指す指示語。これより前の文章中で挙げている二つのものとは何かを確認し、その二つ目を使って解答をまとめる。
※字数指定がない場合は、解答欄の大きさを手がかりにおおよその字数の見当をつける。解答に必要と思われる要素を書き出し、過不足なくまとめる。
※文が長くなる場合は、文のねじれ（主語と述語の対応など）に特に注意する。
※文末は、設問文と対応する形に整える。

(2)　線②「仕事を楽しいと思えるとき」とありますが、筆者の考える「仕事を楽しいと思えるとき」とはどのようなときですか。「自分」という言葉を使って、四十字以内で書きなさい。

ポイント
「こういうのが仕事を楽しいと思えるときだ」に着目して、筆者の考えを捉える。
※指定語句がある場合は、解答にその言葉を必ず使用する。指定語句としては、一つの単語のほか、複数の言葉や、書き出し・文末が指定される場合もある。
※字数が多い記述問題の場合も、指定字数の八割以上は書く。文が長くなるほど文のねじれも生じやすいので、主語と述語の対応や文末表現に注意する。